

令和6年度第2回地方独立行政法人機構評価委員会 議事要旨

日 時 令和6年9月10日(火) 16時00分から17時05分

場 所 加古川中央市民病院 3階 会議室

出席者 委員 5名
加古川市民病院機構 12名
事務局 7名

会議次第 1. 開会
2. 議題
(1) 令和5年度業務実績に関する小項目評価について
(2) その他
3. 閉会

1. 開会	開会の宣言 ＜委員長あいさつ＞
2. 議題	(1) 令和5年度業務実績に関する小項目評価について 事前に提出いただいた各委員の評価について、評価が異なる小項目を中心に質疑及び議論を行い、委員会としての評価を決定していくことを委員長から各委員へ説明があった。 【項目】1-1-(3) 感染症対策の強化 法人自己評価：「4」 委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」 (委員) 年度計画の達成状況も全て達成しており、追加で対応すべきこともなく、現状を継続するのみでよいということで「5」とした。 (委員) 昨年度の法人の自己評価「5」で令和5年度の自己評価「4」となっている理由は何か。 (機構) 22年度は一番コロナ患者を診療した数が多く、それ以降はコロナ患者の症状が軽症化しており、病院として重症化患者を受け入れた数も少なかった。結果として、病床確保数も最大52床から36床に減らしても対応が可能であった。しかし、軽症患者が増えると地域の医療機関との連携がさらに重要となるが、病院として地域との連携という面で対応が充分ではなかった。 (委員) コロナ患者が増えるなかで、昨年度と同様にコロナ患者をこれまでと同様に受け入れを行っている。今後の新興感染症に対する準備も何一つ申し分なく、評価を「5」でもよい。 【項目】1-1-(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮 法人自己評価：「5」 委員事前評価：「4」（1人）、「5」（3人）⇒ 評価委員会評価：「5」 (委員) 活動指標をみても紹介率や逆紹介率をみても大きく達成している。 (委員) 心不全地域連携ネットワークとは何か。 (機構) この地域の高度急性期医療を提供するのは当院と考えられており、他に循

環器専門医が県立医療センターと順心病院に在籍しているため、一般的な心不全を診療できるのは当院含め3病院である。しかし、高齢化に伴い爆発的に発生する心不全患者には対応できないと考えられることから、在宅に患者が復帰しても適切な治療ができるよう、専門医がいない2次救急病院が協力して体制を整えている。相談があれば認定看護師が相談に応じるなど支援するような体制を整えている。

また、在宅医療の連携という点で、介護のレベルで開業医や訪問介護事業者との連携も今後重要であると考えている。

【項目】1-2-(1) がん医療の充実

法人自己評価：「3」

委員事前評価：「3」（3人）、「4」（1人）⇒ 評価委員会評価：「3」

（委員）

目標指標のがん登録件数や手術件数とも目標を達成していないが、がんに対する予防や啓蒙に力をいれた点もあると思う。4月から緩和ケア病棟も開始されその開設準備を進めてきたことや、緩和ケアチームのタイムリーに介入できる体制を整備していること、さらに活動指標のがん相談件数は増加しており、地域・在宅で課題を抱えた患者の相談に応じているなどを踏まえ、「4」と評価した。

（委員）

法人自己評価が「3」としている理由は何か。

（機構）

目標の達成状況が大きく影響している。年度計画は中期計画を達成するために各年度の目標設定をしており、それを達成できていない状況である。

（委員）

緩和ケアチーム介入件数を高く目標設定している理由は何か。また、達成状況からして体制に何か変化あったのか。

（機構）

今後重要な領域なので高く設定している。

乳腺外科の領域に関して異動があったので医療体制として影響はあったが、その他の領域の体制については変更ない。

【項目】1-2-(4) 周産期医療の充実

法人自己評価：「3」

委員事前評価：「3」（3人）、「4」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」

（委員）

市内だけの問題ではないが、高齢化に伴い地域の分娩を受け入れる産科の医療機関が減少しているなかで、ハイリスク分娩や新生児ケアも対応している。

	また、小児科医のなかでも新生児科医の医師も減っている状況のなか、人材育成という点でも中央市民病院はよく対応している。「4」の評価でよいと考える。 (委員) 昨年度の法人の自己評価「4」で令和5年度の自己評価「3」となっている理由は何か。 (機構) 年度計画の目標指標を達成していなかったことが理由である。 (委員) 中央市民病院で合併症やリスク患者だけでなく、お産ができるというPRが足りなかった面もあるのではないかと考える。しかし「4」という意見も理解できる。 (委員) 社会情勢や環境が変化するなかで、数値目標は、当該要因を考慮すれば目標値を達成していると考えられることのできる「4」でよい。 (委員) 社会情勢を踏まえれば、目標達成は難しいとなれば「4」でよい。 【項目】1-2-(5)小児医療の充実 法人自己評価：「4」 委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」 (委員) 小児地域医療センターとして24時間365日対応しており救急受入体制を堅持していることや高度医療の充実ということで喉頭気管支鏡などによる治療や圏域外の受入れも行っている。また、小児科救急受入件数の達成状況が126.6%となっており大きく評価できる。 (委員) 小児科外傷の受入体制の整備ができなかったと前回の評価委員会で説明があったので、法人評価が「4」と理解していた。 (委員) 小児科外傷救急の受入れ体制ができなかったとあるが現状はどうか。 (機構) 小児科外傷の診療を専門の医師と相談しながら体制を構築できればと検討していたが、マンパワーの問題で現状は休止している状況である。小児科外傷の専門医先生がいれば今後の課題としたい。
--	--

	(委員) 現在の小児科外傷はどこが対応しているのか。 (機構) 軽症なレベルのものは救急科がしているが重症な患者は県立こども病院で診療していただいている。 【項目】1-2-(8)高度・専門医療を提供する人材の確保と育成 法人自己評価：「4」 委員事前評価：「4」（3人）、「5」（1人）⇒ 評価委員会評価：「4」 (委員) 数値目標を概ね達成しており、その他の取組状況も全て達成している。主観的になるが、専門職が集まる組織は人材の確保や教育は競争の源泉であり重要と考えており、またそこに関して昨年度と比較して実習生の増加や資格取得者数の増加など評価してよいと考えている。 (機構) 専攻医のプログラムは内科・外科・総合内科があるが、少し定員が足りない部分があるので、若い医師を確保するという点で課題である。 医師は神戸大学の医局より派遣されているが、その中で病院として派遣医師数という点で弱い診療科がある。具体的にいえば、脳外科であり、中央市民病院の近くに順心病院があるので派遣がなかなか難しいという現状がある。 (委員) 初期研修医の産婦人科の育成枠は別枠でできたのか。 (機構) 小児科の育成枠とともにできた。 【項目】2-1-(2)コンプライアンスの徹底 法人自己評価：「3」 委員事前評価：「3」（3人）、「4」（1人）⇒ 評価委員会評価：「3」 (委員) 年度計画の目標を全て達成しており、また活動指標のコンプライアンス研修参加者数の数値をみても昨年度より約1割増加しており、職員のコンプライアンス意識が高まってきたと評価できる。 また、第三者機関により実施される病院機能評価についても、S・A評価がメインであり、十分評価できると考えられる。 (委員) 昨年度の法人の自己評価「4」で令和5年度の自己評価「3」となっている理由は何か。
--	--

	(機構) 年度当初に契約事務について信用失墜行為があり懲戒処分事案があった。 SNS ガイドラインや個人保護ガイドラインの作成など一定の取組を行ってきたが、成果として前年度比較してマイナスとなったことから「3」とした。 (委員) コンプライスは予防に尽くすことが重要であり、不正事案が発生したときにどう対処したかが重要である。しかし、他の委員の評価でまだ課題があるという評価されていることを踏まえれば「3」でよい。 【項目】3 財務内容の改善に関する事項 (委員) 他の病院と比較しないとわからないが、単体で財務書類をみると安定的である。 (委員) 昨年度と比較してコロナ補助金が 10 億円減という点は気になるがそれでもプラスなので問題ない考える。 【項目】4 その他業務運営に関する重要事項 (機構) 市の政策の協力という点で、市民へのワクチン接種において医師や看護師などを派遣や市のイベントに対しても派遣している。しかし、ボランティア活動はコロナ禍で活動内容が減っているが、コロナもほぼ落ち着いてきているので、もう少しアクティブに活動できればと思う。また、地域との交流という点で病院フェスタを再開していきたいと考えている。 (2) その他 特になし。
3. 閉会	<副委員長あいさつ>